

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

大きく揺れ動いている 学校教育現場

～荒れる中学生、ネット社会の「影」 そして、学校の迷信(?)～

立科町教育相談員 岩上起美男

「明治5年の学制発布が始まりとされる日本の学校教育は、まだまだただか数百十年の歴史であり、学校教育のシステムも教育内容も、まだまだ完成の域には至っていない。学校教育現場は今現在も、嵐の荒波の中を航海する帆船のように大きく揺れ動いている……。」

昭和46年4月から平成21年3月まで、教師生活のほとんどを中学校教育現場で過ごした老生は、教職に就いて数年後には、中学校に限らず、小学校も高校も長い不安定混乱期を経て、今、(安定充実期とはいかなくとも)ある程度、安定した段階にあるのではないかと考えていました。学校教育には、これが究極の形というものはあり得ないだろうと考えつつ、中学校の日々の営みに対して、安定したイメージを抱いていたのです。

ところが、折節に、冒頭のような、不安や戸惑い、嘆きの入り混じった学校観に襲われることがありました。授業や学級活動、給食、清掃、生徒会活動、部活動など、日常的な教育活動に取り組みながら、学校に安定を感じ、学校の更なる安定を願うと同時に、何やら不安定なものを感じていたのです。

今までに三度、取り分け強く学校教育現場は揺れ動いていると感じました。

一度目は、昭和50年代後半、A中学校で、細く剃った眉毛と両額の青白い剃り込み、茶髪、短ラン、ボンタン姿のツツパリ中学生集団が、授業妨害や器物破壊、喫煙、暴力などの反社会的な行為を通して、学校教育の在り方、教師の有り様、そして、大人社会の体たらくを激しく問うたときです。

二度目は、平成10年代の半ば、B中学校において、インターネットの掲示板にある生徒に対する誹謗中傷が書き込まれ、チェーンメールで「不幸の手紙」のように広がってしまったときです。B中学校の教師は、その解決のためにおびただしい時間とエネルギーを費やしました。しかし、加害者の特定も、誹謗中傷の文言をすべて削除できたかどうか、有耶無耶のままでした。関係機関とも連携して対応しましたが、解決手段を見出せなかったのです。

ネット上で起こった、この生徒指導の問題によって、情報化社会への急速な移行の「影」にひそむ不気味な闇の世界に對して、強い憤りと無力感を覚え、当時、次のような繰り言が頭の中を駆け巡っていました。

中学校の生徒指導は一変した。

大変な時代になってしまった。中学校の教師にはとても対応できない問題が起

こるご時世だ。

親や教師の目の届かない、何が何だか訳の分からないところで、陰湿な人権侵害行為が起こってしまう。そして、その解決の術もない。

情報モラルとマナーの徹底?

メディア・リテラシー(情報を識別し、活用する能力)を育む?

これらは、今日の学校教育の重点的な指導事項とされているが、その効果のほどは甚だ心許ない。学校で指導しなくても、守れる生徒は守り、学習しても、守れない生徒はいつかな守れないのだ。

校外であろうが、深夜であろうが、その時その場で指導しない限り、ケータイやパソコン(当時、スマホはありませんでした)など、功罪併せ持つ「文明の利器」を、恰好の玩具と思込んでいる中学生にはほとんど浸透しない。

半面、保護者の適切な指導と配慮によって、かの「文面の利器」をきちんとコントロールし、有効に活用している中学生は、決して誹謗中傷行為などには走らない。

ところが、有識者と称される輩が新聞やテレビで、「児童・生徒の教育をつかさどる教師が指導し、解決すべき問題だ。」としたり顔で説く。

世界に先駆けてインターネットを開発したアメリカの、情報機器に関する研究